

ネットギャラリーのご紹介

発売前の書籍のゲラをプロフェッショナルな読者に届けるサービス

出版デジタル機構

新規事業推進部 ネットギャラリー担当

原田秀次郎

www.netgalley.jp



■NetGalleyとは？

NetGalleyは2017年10月にオープンしたWebを使った紙書籍の販促サイトです。本の製作過程で校正に使う試し刷りを「ゲラ（英語でギャラリー・galley）」というのですが、NetGalleyを簡単に表現するならば「ネットでゲラを配布する」というサービスです。

出版社がデジタル化されたゲラを広く配布することにより、新刊のPRを行うと同時に、書店員の方々に発売前の書籍の本文にいち早く目を通してもらうことで、仕入や選書に活用して頂くという画期的な仕組みです。

2018年2月現在、31社の出版社がゲラの提供を開始しており、1500名を超える方が利用登録しています。

■ゲラがデジタルで届く

NetGalleyはオープンなWebサイトです。パソコンやスマートフォンで「ネットギャラリー」と検索すれば、誰でもアクセスできます。NetGalley上では各出版社が紹介ページを持っており、そこに発売前のゲラや、発売後のイチオシ作品の本文データを掲載しています。それらの作品に対して、「ゲラを読みたい」というリクエストを出すことで、出版

社と書店員の方々が直接繋がる仕組みとなっています。

ゲラがデジタルで配布されることのメリットはいくつかあります。その一つが、いわゆるカリスマ書店員として認知されている方、特に多くの出版社からゲラ読みの依頼が集中している方にとって、机の上や鞆の中が「ゲラだらけ」という状況を解消できるようなということですね。一方で、これまでゲラというものに全く縁がなかったという方も、NetGalleyを通して自身の興味・関心を出版社に届けることが可能になります。

もう一つは出版社のコスト圧縮です。紙のゲラを配布すると、用紙代や梱包・発送の費用がかかるため、限られた作品を限られた方にしか配布できません。デジタル化することで、ページ数の多い作品やフルカラーの作品など、製作コストの関係で配布用のゲラを作ることができなかった作品も、今後は書店員の方々に届けることができるようになります。ぜひ、精度の高い積極的な情報収集のツールとしてNetGalleyをご利用ください。

■会員登録、利用は無料

NetGalleyは、出版社からゲラの掲載料を頂戴して運営しており、書店員の方々は無料でご利用頂けます。また、書店員のみならず、図書館司書、学校の先生、メディア関係者やブローガーといった方々も参加することができます。無料で登録が可能なWebサイトとい

うことで、一見するとゲラのタダ読みサービスのようにも思えますが、そこは出版社とプロフェッショナルな読者を繋ぐための様々な仕掛けが施されています。会員にはプロフィールを記載する欄があり、出版社はその情報を参考にしつつ、ゲラを読みたいという会員のリクエストを承認（またはお断り）しています。出版社にとって非常に重要な情報ですので、書店員の方々には、店舗名や番線、担当されている棚やジャンルなどをご記入頂き、ご自身の「本をオススメする力」を出版社にアピールする機会としてご利用ください。NetGalleyでは、多くの書店員の方々と出版社が、ゲラのリクエストを通して日々新たな出会いを体験しています。

■フィードバック、レビューの共有

ゲラをデジタルで配布する以外にも、NetGalleyの重要な機能としてフィードバックやレビューの投稿機能があります。会員は読んだ作品に対して、星の数による5段階評価やレビューおよび出版社向けのメッセージを届けることができます。発売前の作品に、書店員、図書館員、ブロガーなど様々な会員タイプのプロフェッショナルな読者がレビューを投稿し、それらがPOPや広告に利用されることで、作品のプロモーションにも参加することができます。映画の試写会のように、発売前の盛り上がりをみんなで作っていくことも、NetGalleyの魅力のひとつです。

また、出版社の方々も、レビューやメッセージを通して会員とコミュニケーションを図り、自社の作品をサポートしてもらえ「本の応援団」を作ることができるようNetGalleyに期待しています。積極的にご参加頂き、出版社との関係を深めて頂きたいです。

■書店員さんのご参加をお待ちしています！

NetGalleyをオープンするにあたり、これまで様々な場所でサービスのご紹介をしてみました。全国各地で開催された書店商談会にも出展し、北海道から九州まで7都市の会場にて書店員の方々にご案内いたしました。また、トーハンをはじめとする販売会社各社にも書店員へのご紹介にお力添えを頂き大変嬉しく思っています。「書店員だからこそリクエストが承認されてゲラを手にすることが出来る！」と、書店への帰属意識を高める期待もあり、本好きにはたまらないサービスであるという評価も頂いています。また、商材研究としてゲラを読み、発売日までに売場やPOP作りの準備をする、出版社へレビューやコメントを届けて繋がりを築いていく、といったことにNetGalleyはびったりのサイトです。次のページには、サービス初期から積極的にご協力頂いた光文社様、会員としてご利用頂いている書店員お二方から期待の声を寄せて頂きましたので、ぜひお目通しください。参加出版社も続々と増えています。書店員の皆様、ぜひ「本の応援団」にご参加ください！

参加出版社（50音順）

朝日新聞出版、イースト・プレス、NHK出版、学研プラス、KADOKAWA、河出書房新社、幻冬舎、講談社、光文社、実業之日本社、集英社、秀和システム、主婦と生活社、主婦の友社、小学館、新星出版社、世界文化社、竹書房、TAC出版、ディスクヴァー・トゥエンティワン、筑摩書房、読書人、トランスビュー、日経BP、白泉社、PHP研究所、扶桑社、双葉社、ブリッジ、文藝春秋、マガジンハウス など
(2018年2月1日現在)

▼お問い合わせはコチラまで

出版デジタル機構 新規事業推進部
ネットギャラリー担当 原田秀次郎(はらだひでじろう)
hidejiro.harada@pubridge.jp



1985年大分県生まれ。上智大学大学院外国語学専攻科言語学専攻。卒業後、トーハンへ入社。書籍仕入部に1年、海外事業部国際ライツグループに5年在籍。2015年6月よりネットギャラリー事業の立ち上げのため、出版デジタル機構へ転職。

参加出版社の声

光文社
マーケティング局書籍販売部
副部長 川原田康高

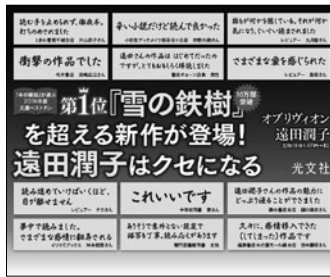
弊社は正式オープン前のアルファ版の段階からNetGalleyに参加しています。まだ10カ月余りですが、この新たなサービスが、書籍販売における強力な「道具」になる可能性を感じています。とはいっても、今までに公開した作品のなかから5万部、10万部を超えるヒット作が生まれたというわけではありませんので、成功事例というよりは試行錯誤のご紹介としてお読みいただければ幸いです。

弊社では2017年の年末までに19作品のゲラを公開しましたが、その中には公開するだけで終わってしまった作品もあります。当たり前前のことですが、ネットの世界に現実の書店店頭ではありません。そこでいくつかの作品では、NetGalleyでのゲラ公開から、現実の書店側へ一歩踏み込んだ取り組みをすることで、若干の手応えを感じています。ここでは、『つぼみ』(宮下奈都著・2017年8月刊)と『オブリヴィオン』(遠田潤子著・2017年10月刊)の2作品の例をご紹介します(お陰様で両作品とも重版できました)。

『つぼみ』は、既に熱烈なファンを多く獲得している宮下奈都さんの新作ということで、「新作のゲラが読める」ことをインセンティブ

として、発売前から応援していただける書店を募集しました。弊社から招待メールを送った応援書店のみがゲラをダウンロードできる設定とし、読んだ感想をSNS等に投稿していただくことをダウンロードの条件とすることで、『つぼみ』の感想が発売前から多くの読者の目に触れることを図りました。

一方、『オブリヴィオン』は、著者の知名度がまだそれほど高くないということもあり、まずは多くの方に作品の良さを知ってもらうことを最優先に、ゲラを希望する方は誰でもダウンロード可能な「すぐ読み」機能を利用、弊社公開作品の中で一番多い読者を獲得することができました。その結果、感想・レビューなどのフィードバックも一番多く返ってきましたので、それらのフィードバックから引用したPOPを羅列したPOPを作製し、店頭拡材として書店様にお配りしました。



▲遠田潤子著『オブリヴィオン』POP

先に、NetGalleyが強力な「道具」になる可能性を感じる、と書きました。逆に言うともいえます。また「正しい使い方」は一つではないと思いますので、今後もいろいろ

な「使い方」を試行錯誤していきたく考えています。その中で、弊社として取り組んでいきたい「使い方」の一つに、NetGalleyを利用して、全国の意欲ある書店員様とのネットワーク作り、ということがあります。

ご紹介した『つぼみ』の取り組みにおいては、ご参加いただいた書店員の方を北は盛岡から西は福井まで8名お呼びして、意見交換の場を設けました。その場で特に印象に残ったのが、知られざる目利き書店員が地方にはまだまだ埋もれていて、そのような隠れた才能の発掘にNetGalleyが役立つのではないかとという意見です。現状では、一部の「カリスマ書店員」と呼ばれる方々に多くの出版社から事前ゲラ読みや推薦コメントの依頼が集中していますが、NetGalleyの仕組みを使うことで、より多くの書店員様がゲラに触れ、目利きの才能を発揮できるのではないのでしょうか。そういった才能ある書店員の方々とともに、新たなベストセラーを生み出すことができればと期待しています。

今後に向けて、少し大風呂敷を広げてしまった感がありますが、その実現のためには、より多くの書店員様にNetGalleyを利用していただく必要があります。まずは弊社のゲラをリクエストしてみてください。よろしくお願いたします。

利用書店員の声 その1

くまざわ書店 アクアシティお台場店

店長 相原聡子

ここ数年、世の中や紙の本を取り巻く環境はともダイナミックに変化しています。変化についてゆくのは、歳をとればとるほど大変！ かくいう私もそろそろキツイ。けど実際新しいことを始めてみると、最初の壁を超えれば面白くなることの方が多いですね。

出版デジタル機構のネットギャラリー担当者さんからネットギャラリーのサイトを紹介して頂き、最近本格的に使用していますが、まず製本されていないゲラより断然読みやすいです。フィードバックに書いた抜材希望にもすぐ返答頂きました。出版社の担当の方がきちんと目を通して下さっているのだと思います。電子書籍が苦手な方も書店には多そう…。

でも実際に自分で使ってみないと、お客様の気持ちもわからない。これからどう紙の本を売っていくか、まずはお客様の側に飛び込んでみては。

今後の要望としては、本から離れ始めるローティーン向けの書籍や、文芸以外のジャンルがもっと増えると、販売方法も広がるかな。店頭での活用に繋がるサービスとして成長して下さると嬉しいですね。

利用書店員の声 その2

小田急ブックメイツ 狩野大樹

出版社の営業さんからのご紹介と一昨年の書店大商談会で配布されていたチラシでネットギャラリーのことを知りました。電子書籍は普段はほとんど使わないのですが、使ってみると読みやすく、興味を持っても手に取っていなかった本を読むきっかけになったり、ゲラやプルーフだと持ち運びに不便だったものが電車などの移動中の少しの時間でも簡単に読めたり、思っていたより便利で利用させていただいています。読む機会の無かった作者の作品に触れていくことに活用していきたいです。

難点と言うか期待と言うか、ダウンロードしてから読める期間が定まっているので、同じ時期にたくさん種類があると読みきれないのと、読み返す事が出来ないのが本屋大賞などの投票時には使いづらいのが残念です。今のままですと少しずつプルーフに戻って読んでいる気がします。ただ、かなり色々な出版社・著者・ジャンルと増えてきているので、どの担当者にも対応が出来てきているのが魅力だと思えます。



ネットギャラリーで本の応援団になろう！



<https://www.netgalley.jp>

書店様は無料でご利用頂けます！